

平成27年度家庭科教育にかかわる現状と課題

部長 石栗 美子

1 家庭科教育の現状

(1) 授業実践に基づく研究

長岡市立新組小学校では、「よりよい生活を創り出す児童の育成」を主題に、山口恵理子教諭が5年「食べて元気に」の授業を公開した。総合学習(米作り)を関連させた単元作りや「目的意識をもたせる・家庭との連携や体験活動を通して学ぶ・言語活動を充実させる」等が単元構想に位置付けられ、指導がなされていた。

燕市立燕東小学校では、「実践意欲を高める家庭科指導の工夫」を主題に、橋本信行教諭が6年「まかせてね 今日の食事」の授業を公開し、燕南小の栗林教頭先生より指導をいただいた。「ジャガイモが好きな奥さんのために考えた献立」を授業者が示したことは、相手意識があり意欲付けになった。

新発田市立七葉小学校では、「栄養教諭と連携した食育指導」のテーマで、寺尾絵里子教諭と増田ます美栄養教諭が6年「くふうしよう たのしい食事」の授業を公開した。当市では「6年生で弁当を一人で作る」を目指している。栄養教諭より弁当作りのポイント(栄養指導)があり、意欲的に取り組むことができた。

村上市立さんぼく南小学校では、「学習指導要領の趣旨に沿った家庭科指導の在り方」を主題に、小田公子教諭が県セン指導主事の櫻井直子先生より指導をいただき、6年「まかせてね 今日の食事」の授業を公開した。2つの献立例を比較することで、違いを見つけ出し、より良い献立を選ぶことができた。

五泉市立五泉小学校では、「授業研究及び研修や実習を通して、授業力の向上を図る」を主題に、家庭科担当教諭と栄養教諭が連携し、5年「食べて元気に」の授業を公開した。給食を教材として食品(絵カードを活用)の仲間分けを行い、児童は具体的なイメージをもって考えることができた。

阿賀町立三川小学校では、「自分の生活に生かす 家庭科学習の在り方」をテーマに、指導者に新潟医療福祉大学教授の森泉哲也先生をお招きし、河村崇教諭と三川中学校川崎春奈栄養教諭がTTで、「くふうしよう 朝の生活」の授業を公開した。家庭科の特質を大切に、「朝ごはん=短時間で調理ができる」が重要。

(2) 家庭科指導に生かすための現地研修や実習、教材研究

- ・南魚沼市：地域の伝統工芸「塩沢織り」体験を実施。貴重な体験であったが授業への生かし方が課題。
- ・魚沼市：実習を通して単元「ミシンにトライ！手作りで楽しい生活」のつまずきやすいポイントを知る。
- ・柏崎市刈羽郡：「米粉を使って～米粉パン作り」実習→児童が扱うには難しい。ピザの生地の方が良い。
- ・三条市：「子どもが作るお弁当の日」に向けて、地域素材を使った子どもが作れるおかずの調理実習。
- ・加茂市・南蒲原郡：農業研究施設の見学を通して、米穀食品の理解を深めることができた。
- ・見附市：生活科で育てる野菜を使って調理実習し、教材化について考えた。さつまいもポタージュ等。
- ・新潟市：指導計画を立て模擬授業の実施。味噌作り体験。消費者教育研修の開催。
- ・阿賀野市：地元農家「安田興和農事」見学。調理実習「郷土料理に親しもう」の実施。地産地消の実現へ。
- ・胎内市：「べにはるか」産地見学と地産地消のレシピによる調理実習。家庭科の指導計画の中に位置付ける。

(3) 小・中連携による家庭科指導の工夫

- ・上越市：上越市城北中学校 齋藤直美教諭による「B食生活と自立 中学生の食生活と栄養」授業公開
- ・糸魚川市：糸魚川中学校 「日常着の活用～自分らしく目的に合わせた着方」授業公開
- ・中魚・十日町：十日町中学校 井口暁子教諭による「献立」の授業公開。地域素材を使った調理実習。
- ・妙高市：栄養士・栄養教諭合同で講演会「地域の食材を授業・給食に活かす教材・レシピづくり」等
- ・佐渡市：佐渡の食材を使った簡単おやつ作り(実習)、小・中連携の授業の在り方(講話)

2 家庭科教育の課題

家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てることが教科の目標である。活動のまとめのとおり、授業公開は食に関する内容が多い。現地研修や実習も食・衣に関する内容が多い。食べることは、生きる源であり重要な内容であるので当然と言えば当然であろう。一方、家庭生活に関する単元・教材の検討や授業実践は少ないのが現状である。個々の児童生徒の家庭環境は複雑になり、さらにスマホ等の使い方が問題となっている。このことを解決するためには、家庭科教育として、生活時間の使い方・家族とのかかわり・近隣の人とのかかわり等、授業をどのように構想するか授業実践が期待される。